

## 野生きのこの探索 (昭和63年度)

— 野生種原木及びオガ屑栽培 —

澤	章	三
加	藤	龍
菱	田	重
大	野	浩
		暲

## 要 旨

県内の食用になる野生の木材腐朽菌等を各方面の協力により15種67菌系収集した。

次に収集した菌系のうち、アラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケの各3菌系づつを使用して原木による試験栽培を行い、ほだ付や発生量を調査した。また、同様にオガ屑による試験栽培を行い、発生量を調査した。その結果を要約すると、

## 1. 昭和63年3月に接種したほだ木のほだ付

(1) アラゲキクラゲのほだ付はほだ木の断面の樹種間に有意差が認められ、シデ、サクラがよく、ヒノキ、コナラ、スギの順であった。

(2) ナメコのほだ付はほだ木の表面及び断面の菌系間及び樹種間に有意差が認められた。表面の菌系別ではANA 8601がANA 8602、愛知1号より優れていた。同樹種別ではサクラが1番よく、コナラ、シデ、ヒノキ、スギの順であった。又、断面の菌系別ではANA 8601、同 8602が愛知1号より優れていた。同樹種別ではシデ、ヒノキがよく、サクラ、スギ、コナラの順であった。

(3) シイタケのほだ付はほだ木の表面及び断面の樹種間に有意差が認められた。表面ではコナラ、シデが1番よく、サクラ、ヒノキ、スギの順であり、同様断面ではコナラが1番よく、シデ、サクラ、ヒノキ、スギの順であった。

## 2. 昭和62年2月に接種したほだ木の発生量調査

スギ、ヒノキはアラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケの3種ともに発生量が少なく、コナラはシイタケに、サクラ、シデは3種ともに発生量が多かった。

## 3. オガ屑による試験栽培

(1) アラゲキクラゲはAPO 8602の発生量が多く樹種ではシデ、ブナ、スギが優れていた。

(2) ナメコはANA 8602、愛知1号の発生量が多く、樹種では、コナラ、シデ、ブナが優れていた。

(3) シイタケはいづれの菌系も発生が悪く、樹種ではコナラ、シデが優れていた。

## I 目 的

県内に生育する食用になる野生の木材腐朽菌等を収集し、そのうち、アラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケの一部を用いて、針葉樹材及び広葉樹材による原木栽培やオガ屑栽培を行い、優良な

菌系を選抜することを目的とする。

## II 方 法

## 1. きこの収集

食用になる野生の木材腐朽菌等を収集した。

(1) 5～11月まで1カ月毎に県内3カ所(段戸

鳳来寺 黄柳野)の林内において採集した。

(2) 県事務所等に野生のきのこの採集を依頼した。

2. 収集したきのこの整理

- (1) 組織の分離培養を行った。
- (2) 液浸標本の作成を行った。

3. 原木による試験栽培

収集した菌株のうち、アラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケの一部を用いて、スギ、ヒノキ、コナラ、サクラ、シデの原木試験栽培を行った。

(1) 昭和63年3月に接種したほだ木のほだ付調査

ア 伐採時期 昭和63年2月

イ 伐採場所 林業センター試験林

ウ 樹種 スギ、ヒノキ、コナラ、サクラ、シデ

エ 直径および長さ 直径5~12cm 長さ1m

オ 本数 3種×3菌系×5樹種×15本=675本

カ 接種時期 昭和63年3月

キ 菌系 9菌系を使用(アラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケ各3菌系づつ)

ク 接種方法 直径13mm 深さ20mmの孔にアラゲキクラゲは原木末口径の5倍、ナメコ、シイタケは同3倍の個数を千鳥状にオガ屑菌を接

種し、スチロール栓をした後、封ローした。

ケ 伏せ込み アカマツを主林木とする林内に接地伏せにした。

コ 天地返し 実施しなかった。

サ ほだ付調査 各区5本のほだ木を接種9カ月後の12月に剥皮し、表面および中央断面の菌系のまんえん面積をトレースし、重量法により面積率を測定した。

(2) 昭和62年2月に接種したほだ木(3種3菌系×5樹種×10本=450)本の発生量調査を行った。なお、このほだ木の試験方法については昭和62年度の報告のとおりである。

4. オガ屑による試験栽培

収集した菌株のうち、アラゲキクラゲ、ナメコ、シイタケの一部を用いて、スギ、ヒノキ、コナラ、サクラ、シデ、ブナでのオガ屑による試験栽培を行った。なお、試験方法については昭和62年度報告のとおりであるが、3種のきのこの培地組成はアラゲキクラゲがブナオガ屑：フスマ=10：3、ナメコがブナオガ屑：コーン=10：3、シイタケがブナオガ屑：フスマ：米糠=10：1.8：1.2であった。

III 結果および考察

1. 収集した食用になる野生の木材腐朽菌等

本年度収集した食用になる野生の木材腐朽菌等

表-1 収集菌株の一覧表

種名	菌株番号	採取地	発生の特徴					取採月日	取採者	分離方法	分離月日	分離者	備考
			樹種	位置	腐朽型	子実体の特徴	発生型						
シイタケ	AED 8801	愛知県鳳来町	クヌギ	倒木	白色	-	孤生	63. 4. 4	沢 章三	組織	63. 4. 5	沢 章三	1
"	" 8802	" "	コナラ	"	"	-	"	"	"	"	"	"	2
"	" 8803	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	3
"	" 8804	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	4
"	" 8805	" "	クヌギ	"	"	-	"	"	"	"	"	"	5
"	" 8806	" "	コナラ	"	"	-	"	"	"	"	"	"	6
"	" 8807	" "	"	"	"	-	"	63. 4. 5	"	"	63. 4. 6	"	7
"	" 8808	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	8
"	" 8809	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	9
"	" 8810	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	10
"	" 8811	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	11
"	" 8812	" "	"	"	"	-	"	63. 4. 6	鈴木 安子	"	"	"	12
"	" 8813	" "	アカマツ	"	"	-	"	63. 4. 12	金田 康嗣	"	63. 4. 12	"	13
"	" 8814	津具村	スギ	"	"	-	"	63. 4. 15	高木 弘行	"	63. 4. 15	加藤龍一	14

種名	菌株番号	採取地	発生の特徴				採取月日	採取者	分離方法	分離月日	分離者	備考	
			樹種	位置	腐朽型	子実体の特徴							
シイタケ	ABD 8815	愛知県作手村	アカマツ	倒木	白色	-	孤生	63. 4. 21	近藤 輝雄	組織	63. 4. 21	沢 章三	15
"	" 8816	" 鳳来町	コナラ	"	"	-	"	"	遠山	"	"	"	16
"	" 8817	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	17
"	" 8818	" 岡崎市	"	"	"	-	"	63. 10. 8	横川	"	63. 10. 9	"	18
"	" 8819	" 作手村	アカマツ	"	"	-	"	63. 11. 7	近藤 輝雄	"	63. 11. 7	"	19
"	" 8820	" 引佐町	ヒノキ	"	"	-	"	63. 11. 28	金田 康嗣	"	63. 11. 28	"	20
"	" 8821	" 鳳来町	カシ	"	"	-	"	63. 11. 30	内藤 一夫	"	63. 11. 30	"	21
"	" 8822	" 新城市	アカマツ	"	"	-	"	63. 12. 18	近藤 輝雄	"	63. 12. 18	"	22
ヒラタケ	AOS 8801	" 鳳来町	エンジュ	生立木	"	-	群生	63. 10. 14	沢 章三	"	63. 10. 14	"	23
"	" 8802	" "	ホヅラ	切株	"	-	"	63. 10. 16	"	"	63. 10. 16	"	24
"	" 8803	" "	ホウ	生立木	"	-	"	63. 10. 28	"	"	63. 10. 27	"	25
"	" 8804	" 豊橋市	ヤナギ	"	"	-	"	63. 10. 31	"	"	63. 11. 1	"	26
"	" 8805	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	27
"	" 8806	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	28
"	" 8807	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	29
"	" 8808	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	30
"	" 8809	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	31
"	" 8810	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	32
"	" 8811	" 半田市	?	?	"	-	"	"	半田保健所	"	"	"	33
"	" 8812	" 新城市	ブラタナス	生立木	"	-	"	63. 11. 4	新城事務所	"	63. 11. 5	"	34
"	" 8813	" 作手村	?	?	"	-	"	63. 11. 9	夏目大裕介	"	63. 11. 10	"	35
"	" 8814	" "	?	?	"	-	"	63. 11. 11	"	"	63. 11. 11	"	36
クリタケ	ASU 8801	" 津具村	コナラ	切株	"	-	束生~群生	63. 9. 28	沢 章三	"	63. 9. 29	"	37
"	" 8802	" 鳳来町	ヒノキ	"	"	-	"	63. 10. 28	菱田 重寿	"	63. 10. 29	"	38
"	" 8803	岐阜県高山市	コナラ	"	"	-	"	63. 10. 31	大野 浩暉	"	63. 11. 1	"	39
"	" 8804	愛知県豊根村	ヒノキ	"	"	-	"	63. 11. 9	橋久保新平	"	63. 11. 10	"	40
"	" 8805	" 鳳来町	ヒノキ	切株	"	-	"	63. 11. 17	熊川 忠芳	"	63. 11. 18	"	41
"	" 8806	" "	"	"	"	-	"	63. 12. 2	生田 茂男	"	63. 12. 2	"	42
マツオウシ	ARE 8801	" 小原村	アカマツ	"	褐色	-	孤生	63. 6.	深津 四郎	"	63. 6.	"	43
"	" 8802	" "	"	"	"	-	"	"	"	"	"	"	44
"	" 8803	静岡県湖西市	"	"	"	-	束生	63. 7.	夏目 正子	"	63. 7	"	45
"	" 8804	愛知県豊田市	"	"	"	-	孤生	63. 10. 5	豊田事務所	"	63. 10. 6	"	46
ナラタケ	AMB 8801	" 岡崎市	?	"	白色	-	束生~群生	63. 10. 8	横川	"	63. 10. 9	"	47
"	" 8802	" 鳳来町	?	"	"	-	"	63. 10. 16	豊田市自然 科学博物館	"	63. 10. 17	"	48
"	" 8803	" 豊田市	?	"	"	-	"	"	山田 弘	"	"	"	49
"	" 8804	" 鳳来町	?	"	"	-	"	63. 11. 7	鈴木	"	63. 11. 7	"	50
コガネタケ	AAU 8801	" 豊田市	草	地	-	-	群生	63. 10. 16	山田 弘	"	63. 10. 17	"	51
"	" 8802	" 鳳来町	"	-	"	-	"	63. 10. 28	夏目 睦	"	63. 10. 28	"	52
"	" 8803	" "	"	-	"	-	"	63. 11. 7	東海 種園	"	63. 11. 8	"	53
ハタケシメジ	ADE 8801	" 豊田市	"	-	"	-	束生	63. 10. 16	山田 弘	"	63. 10. 17	"	54
"	" 8802	" 新城市	"	-	"	-	"	63. 10. 26	阿部工務店	"	63. 10. 26	"	55
ナラタケモドキ	ATA 8801	" 鳳来町	?	切株	"	-	"	63. 7. 24	神谷 渡	"	63. 7. 24	"	56
"	" 8802	" "	?	"	"	-	"	63. 8. 6	平岩 佑治	"	63. 8. 6	"	57
ヤナギツタケ	ACT 8801	" "	コブシ	生立木	"	-	"	63. 6. 20	熊川 忠芳	"	63. 6. 21	"	58
"	" 8802	" 豊橋市	ブラタナス	"	"	-	"	63. 10. 5	沢 章三	"	63. 10. 6	"	59
マイタケ	AFR 8801	" "	栽培品	-	"	-	菌生	63. 6. 20	白井 栄一	"	63. 6. 21	"	60
"	" 8802	" 設楽町	ミズナラ	地際	"	-	"	63. 10. 9	横川	"	63. 10. 9	"	61
マンネンタケ	ALU 8801	" 鳳来町	コナラ	切株	"	-	孤生	63. 7. 25	丸山 忠	"	63. 7. 25	"	62
アラゲキクラゲ	APD 8801	" "	ブナ	倒木	"	-	群生	63. 6. 29	沢 章三	"	63. 6. 29	"	63
ブナハリタケ	AAI 8801	" 津具村	"	"	"	-	"	63. 10. 9	菱田 重寿	"	63. 10. 10	"	64
ウスヒラタケ	APU 8801	" 鳳来町	ホウ	倒木	"	-	"	63. 9. 7	豊田市自然 科学博物館	"	63. 9. 8	"	65
エノキタケ	AVE 8801	" "	カキ	切株	"	-	束生~群生	63. 10. 27	沢 章三	"	63. 10. 27	"	66
"	" 8802	" 豊田市	ムクゲ	"	"	-	"	元年. 2. 6	黒田 艶子	"	元年. 2. 5	"	67

表-2 各きのこの菌糸まんえん面積率 (表面)

種名	菌系	スギ			ヒノキ			コナラ			サクラ			シデ		
		○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△
アラゲキクラゲ	APO 8603	21.4	0	78.6	26.1	0	73.9	16.2	5.6	78.2	33.2	14.2	52.6	19.2	80.8	0
	APO 8604	16.8	0	83.2	24.9	0	75.1	15.5	0	84.5	50.1	18.4	31.5	39.9	60.1	0
	APO 8605	41.8	0	58.2	36.5	0	63.5	22.5	9.5	68.0	25.6	18.2	56.2	21.2	49.6	29.2
ナメコ	ANA 8601	15.9	0	84.1	35.8	0	64.2	63.0	8.3	28.7	60.9	27.6	11.5	47.5	52.5	0
	ANA 8602	20.1	0	79.9	23.9	0	76.1	44.0	4.2	53.8	72.1	13.8	14.1	14.1	62.4	23.5
	愛知1号	7.1	0	92.9	17.5	0	82.5	14.0	15.0	71.0	71.3	11.1	17.6	42.4	35.9	21.7
シイタケ	ABD 8702	11.7	0	88.3	22.3	0	77.7	96.3	2.9	0.8	43.7	18.0	38.3	91.3	8.7	0
	ABD 8703	8.5	0	91.5	21.2	0	78.8	89.9	1.0	9.1	78.2	10.4	11.4	78.1	21.9	0
	愛知230号	8.6	0	91.4	28.7	0	71.3	97.8	2.2	0	64.1	20.6	15.3	79.1	15.1	5.8

表-3 各きのこの菌糸まんえん面積率 (中央断面)

種名	菌系	スギ			ヒノキ			コナラ			サクラ			シデ		
		○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△
アラゲキクラゲ	APO 8603	2.6	13.7	83.7	23.0	1.0	76.0	13.6	9.9	76.5	16.7	5.9	77.4	29.9	30.4	39.7
	APO 8604	1.7	10.7	87.6	8.7	4.2	87.1	2.2	11.1	86.7	51.2	21.4	27.4	41.2	46.2	12.6
	APO 8605	15.0	0	85.0	12.7	1.4	85.9	9.5	19.7	70.8	17.7	10.7	71.6	18.2	62.9	18.9
ナメコ	ANA 8601	27.1	0	72.9	63.8	0	36.2	31.2	5.7	63.1	33.3	25.4	41.3	67.6	24.0	8.4
	ANA 8602	40.5	10.6	48.9	74.0	0	26.0	7.7	0.8	91.5	38.3	2.1	59.6	66.1	9.8	24.1
	愛知1号	6.8	1.9	91.3	18.2	0	81.8	4.4	6.7	88.9	51.4	1.7	46.9	47.4	8.4	44.2
シイタケ	ABD 8702	6.9	4.4	88.7	18.8	0	81.2	61.8	6.7	31.5	34.9	1.3	63.8	92.1	2.0	5.9
	ABD 8703	2.8	5.2	92.0	10.6	1.8	87.6	52.1	0	47.9	30.9	0.2	68.9	81.5	13.0	5.5
	愛知230号	0	0	100	17.8	2.4	79.8	66.6	5.4	28.0	24.9	2.0	73.1	90.8	6.0	3.2

○きのこ菌糸まんえん面積率 ×雑菌まんえん面積率 △未まんえん面積率

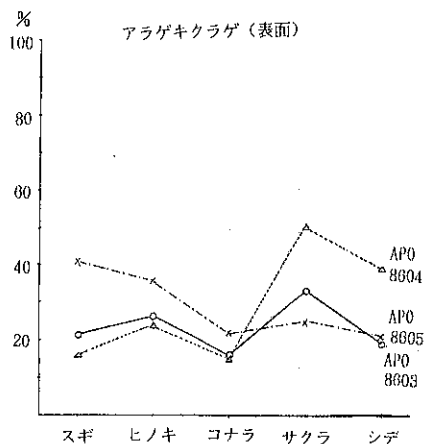


図-1 きのこ菌糸のまんえん面積率

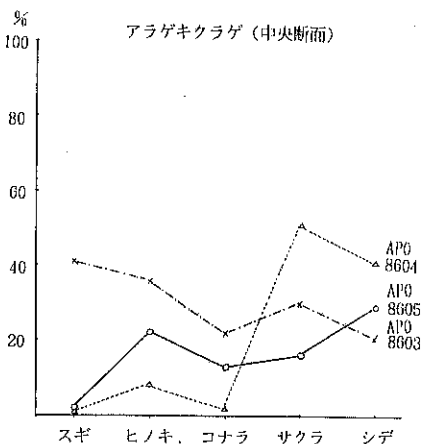


図-2 きのこ菌糸のまんえん面積率

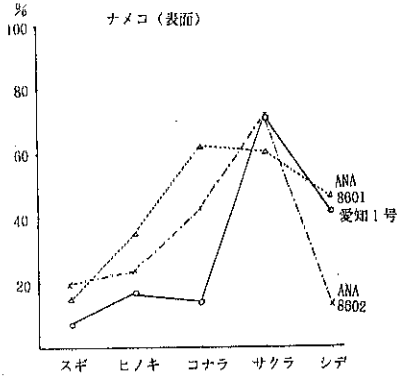


図-3 きのご菌糸のまんえん面積率

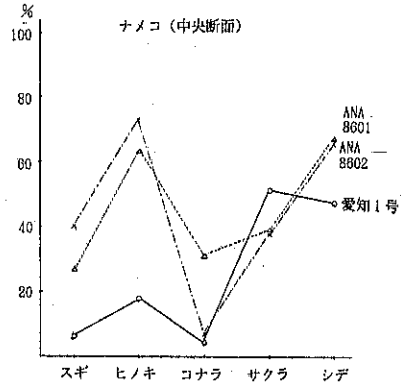


図-4 きのご菌糸のまんえん面積率

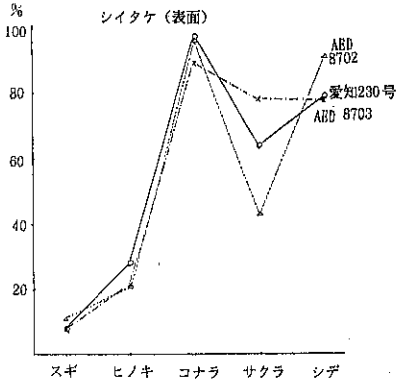


図-5 きのご菌糸のまんえん面積率

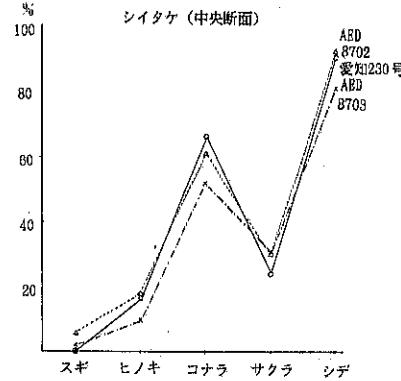


図-6 きのご菌糸のまんえん面積率

は15種67菌系で表-1のとおりであった。これによると針葉樹に生えていたものは少なく、シイタケ6菌系(スギ1菌系、ヒノキ1菌系、アカマツ4菌系)、クリタケ2菌系(ヒノキ)、マツオウジ4菌系(アカマツ)の12菌系であった。今後も地域の協力を得て、針葉樹材に生育しているシイタケ、マツオウジ等を重点的に収集したいと考えている。

2. 原木による試験栽培

(1) 昭和63年3月に接種したほだ木のほだ付調査

3種のきのごの表面および中央断面における樹種別、菌系別のほだ付率は表-2、表-3、図-1~6のとおりであった。

ア アラゲキクラゲの場合

(ア) 表面における菌系別の菌糸まんえん面積率(5樹種の平均値)は APO 8605(野生種)が

29.5%、APO 8604(野生種)が29.4%、APO 8603(野生種)が23.2%で3菌系の間には有意差はみとめられなかった。

(イ) また同じく表面における樹種別の菌糸まんえん面積率(3菌系の平均値)はサクラが36.3%、ヒノキが29.2%、シデが26.8%、スギが26.7%、コナラが18.1%で5樹種の間には有意差はみとめられなかった。

(ウ) 次に、中央断面における菌系別の菌糸まんえん面積率(5樹種の平均値)は APO 8604(野生種)が21.0%、APO 8603(野生種)が17.2%、APO 8605(野生種)が14.6%で3菌系の間には表面と同様有意差はみとめられなかった。

(エ) しかし、同じく中央断面における樹種別の菌糸まんえん面積率(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、シデ29.8%、サクラ28.5%がヒノキ14.8%、コナラ8.4%、スギ

6.4%より優れていた。

イ ナメコの場合

(ア) 表面における菌系別の菌系のまんえん面積率(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、ANA 8601(野生種)44.6%がANA 8602(野生種)34.8%、愛知1号(市販種)30.5%より優れていた。

(イ) また同じく表面における樹種別の菌系のまんえん面積率(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、サクラ68.1%が最も優れており、続いてコナラ40.3%、シデ34.7%で、ヒノキ25.7%、スギ13.4%は悪かった。

(ウ) 次に中央断面における菌系別の菌系のまんえん面積率(5樹種の平均値)は表面と同様菌系間に有意差がみとめられ、ANA 8602(野生種)45.3%、ANA 8601(野生種)44.6%が愛知1号(市販種)25.6%より優れていた。

(エ) また同じく中央断面における樹種別の菌系のまんえん面積(3菌系の平均値)は表面と同様樹種間に有意差がみとめられ、シデ60.4%が最も優れており、続いてヒノキ52.0%、サクラ41.0%でスギ24.8%、コナラ14.4%は悪かった。

ウ シイタケの場合

(ア) 表面における菌系別の菌系のまんえん面積率(5樹種の平均値)は、愛知230号(市販種)が55.7%、AED 8703(野生種)が55.2%、AED 8702(野生種)が53.1%で、3菌系の間に有意差はみとめられなかった。

(イ) また同じく樹種別の菌系のまんえん面積率(3菌系の平均値)は、5樹種間に有意差がみとめられ、コナラ94.7%、シデ82.8%、サクラ62.0%、ヒノキ24.1%、スギ9.6%順であった。

(ウ) 次に中央断面における菌系別の菌系のまんえん面積率(5樹種の平均値)は、AED8702(野生種)が42.9%、愛知230号(市販種)が40.0%、AED 8703(野生種)が35.9%で表面の場合と

同様、3菌系の間に有意差はみとめられなかった。

(エ) また同じく樹種別の菌系のまんえん面積率(3菌系の平均値)は5樹種間に有意差がみとめられ、シデ88.1%、コナラ60.2%、サクラ30.2%、ヒノキ15.7%、スギ3.2%)の順であった。

(2) 昭和62年2月に接種したほだ木の発生量調査

各種きのこの樹種別の発生量は表-4のとおりであった。

表-4 62年2月に接種したほだ木の㎡当りの発生量(2年間)

単位 g

種名 樹種	アラゲキクラゲ			ナメコ			シイタケ		
	AP0 8602	AP0 8604	日農	ANA 8601	ANA 8602	愛知 1号	AED 8614	AED 8617	菌興 241号
スギ	60	343	41	0	0	1.385	0	0	0
ヒノキ	603	305	25	326	574	1.694	0	0	43
コナラ	0	0	0	0	200	787	0	3.096	657
サクラ	908	2,028	795	14,441	9,530	0,058	0	1,597	2,207
シデ	1,718	1,845	244	1,495	1,445	9,147	510	4,111	4,723

注: アラゲキクラゲ・シイタケは乾重量、ナメコは生重量

ア アラゲキクラゲの場合

(ア) 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、AP0 8604(野生種)が864g、AP0 8602(野生種)が676gで日農(市販種)221gより多かった。

(イ) また樹種別の発生量(3菌系の平均値)は同様に樹種間に有意差がみとめられ、サクラ1,244g、シデ1,202gが、ヒノキ341g、スギ148g、コナラ0gより多かった。

イ ナメコの場合

(ア) 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、愛知1号(市販種)

4,594 g、ANA 8601(野生種) 3,252 g、ANA 8602(野生種) 2,354 gの順であった。

(イ) また樹種別の発生量(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、サクラが11,310 gで1番多く、次いでシデ4,032 gで、ヒノキ865 g、スギ462 g、コナラ332 gは少なかった。

ウ シイタケの場合

(ア) 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、AED 8617(野生種) 1,760 g、菌興241号(市販種) 1,526 gがAED 89614(野生種)102 gより多かった。

(イ) また樹種別の発生量(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、シデが3,115 gで1番多く、次いでサクラ1,268 g、コナラ1,251 gで、ヒノキ14 g、スギ0 gは少なかった。

3. オガ屑による試験栽培

各種きのこのオガ屑の樹種別の発生量は表-5

表-5 オガ屑による各種きのこの発生量

1本当り生産量 g

種名 樹種	アラゲキクラゲ			ナメコ			シイタケ		
	APD 8601	APD 8602	APD 8603	ANA 8601	ANA 8602	愛知 1号	AED 8702	ARB 8703	愛知 230号
スギ	51.8	58.6	0.7	3.0	25.7	4.7	0	0	3.6
ヒノキ	7.2	13.8	0	7.9	45.9	39.3	0	0	19.2
コナラ	4.0	50.2	3.7	37.5	81.5	99.1	0	0	30.0
サクラ	0	17.0	0	1.0	77.7	100.9	0	0	20.2
シデ	59.6	66.5	11.5	14.9	95.0	123.9	0	0	45.5
ブナ	41.1	86.0	0.3	54.9	108.3	65.3	0	0	17.5

のとおりであった。

(1) アラゲキクラゲの場合

ア 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、APD 8602(野生種) 52.3 gが1番多く、次いでAPD 8601(野生種) 27.2 g、APD 8603(野生種) 2.7 gの順であった。

イ また樹種別の発生量(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、シデ52.5 g、ブナ42.8 g、スギ37.0 gが多く、コナラ19.3 g、ヒノキ7.0 g、サクラ6.0 gは少なかった。

(2) ナメコの場合

ア 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は菌系間に有意差がみとめられ、APD 8602(野生種) 72.4 g愛知1号(市販種) 72.2 gがANA 8601(野生種) 19.9 gより多かった。

イ また樹種別の発生量(3菌系の平均値)は樹種間に有意差がみとめられ、シデ77.9 g、ブナ76.5 gが多く、次いでサクラ59.9 g、コナラ43.6 g、ヒノキ31.0 gで、スギは11.1 gで最も少なかった。

(3) シイタケの場合

ア 菌系別の発生量(5樹種の平均値)は愛知230号(市販種) 22.7 gがAED 8702(野生種) 0 g AED 8703(野生種) 0 gより多かった。

イ 樹種別の発生量は愛知230号の結果のみであるが、シデ45.5 g、コナラ30.0 gが、サクラ20.2 g、ヒノキ19.2 g、ブナ17.5 g、スギ3.6 gより多かった。

